

研究分野のキーワード:被服構成, 縫製, ミシン, 手縫い, 着心地, 快適

研究紹介

被服構成学を専門として研究しています。着心地良い衣服を作るために必要な研究をする学問です。

被服構成学は大きく3つの分野に分かれています。身体を計測してグループ化し、既製服がより多くの人にフィットするようサイズを分類し、複雑な体型の特徴を服作りに生かす工夫をする被服体型学、外部の環境と被服の関係を良い方向に導くことは勿論、被服内の環境を研究して快適な着心地にする工夫を提案する被服環境学、そして私の専門である裁縫分野の被服縫製工学の3分野です。

分野として独立してはいますが、全てが密接に関係して快適な衣服ができあがります。型紙が無ければ現代の衣服は簡単に作ることができません。環境との関係を良く知って、材料を選んで快適な服作りに生かします。宇宙服にはこの分野のエッセンスが盛り込まれています。また、服を形作るには平面の材料を立体にしなければなりません。糸を使ってミシンで縫う技術だけでなくフィルム状の材料なら超音波や熱を使って接合し、形作っていきます。

裁縫と言うとファッションやデザインと同一視されることがよくありますが、それらを快適に果たすために必要な基本的な学問分野であると考えてください。

教育学部での研究なので、子どもたちに教えることを念頭に研究を進めていますが、対象が中学生、高校生、大学生、一般になることもあります。縫製の基本に忠実であり、簡単に短時間に完成させられる作品をいつも考えています。

小さなポーチから、大きな浴衣まで教材として開発しています。着心地よいジャケットや、涼しいジャケットを早く形よく仕上げる工夫をしています。綿レースを組み込んだ涼しいスカートやタンクトップ、ワンピースなど暑い夏を快適に過ごす衣類も考えています。

たくさんの方が縫うことに興味を持ってくれるよう、また裁縫好きな仲間が一人でも増えるよう良い被服教材を1つでも多く開発したいと思っています。